

【学校短信】

絶滅危惧種スイゲンゼニタナゴの保護活動 － 生物多様性元年『高農環境を考える会』の取り組み－

岡山県立高松農業高等学校

「高農環境を考える会」のスイゲンゼニタナゴ保護活動は、種の保存法でスイゲンゼニタナゴが希少生物と指定された平成14年に足守地区のスイゲンゼニタナゴを保護するため発足しました。当初は大型水槽で飼育していましたが、岡山市の協力を得て校内にある既存の池を改修したビオトープで飼育するようになり、環境教育の一環としてボランティアの生徒による調査研究・飼育管理が行われてきました。スイレンの繁殖や濁りの発生が多く肉眼での観察がしにくくなり「スイゲンゼニタナゴはいるのか」と危惧されましたが、平成21年11月の調査で28匹が確認できました。しかし、ビオトープ内部の損傷がひどく、改修の必要性が指摘されたため、「倉敷水辺の環境を考える会」の助言を受け、平成22年3月に大規模な改修工事を行いました。

1 改修前のスイゲンゼニタナゴの状況

- (1) 閉鎖的な環境で7年間に渡り世代交代を繰り返しながら個体数が維持できていますが、100匹～1000匹の生息可能な広さがあるにも関わらず個体数が少ないことより、飼育環境が良好でないことがわかりました。
- (2) 近親交配が原因で奇形の個体が発生しており、産卵率の低下等による絶滅の危惧もありました。

2 ビオトープの改善点

- (1) 繁殖しやすい環境づくり
 - ① 産卵、稚魚生息（オオカナダモ）、越冬・避暑、濾過エリアの環境を整え、行動観察しやすいレイアウトにします。
 - ② よしずによる日陰を作り、トンボの産卵を防止するネットを張ります。
 - ③ 循環ポンプにより水を環流させます。
- (2) 観察しやすい環境づくり
 - ① 目詰まりが起りにくいよう濾材部を玉砂

利にすることで透明度が向上します。

- ② 産卵エリアを9区画に分け、卵を産み付けるための二枚貝を観察しやすくします。
- (3) 奇形の発生を防ぐ環境づくり
 - ① 正常なスイゲンゼニタナゴを新規に導入し、繁殖率の向上を図ります。
 - ② 新たなスイゲンゼニタナゴの導入と繁殖には、環境省への許可申請が必要です。
 - ③ 安定した繁殖が可能になると地域へ放流するなどの保護活動が進展し、地域や岡山市の期待に応えることができるようになります。

3 改修後の調査・研究の項目

- (1) 産卵するためのイシガイやマツカサガイなど二枚貝の生育調査
- (2) 稚魚・成魚の行動観察
- (3) 季節による水質・水温などの調査
- (4) ビオトープ周辺の環境調査・百葉箱の設置定期的な調査を行い、研究結果を教材としても利用していきたいと考えています。



写真 ビオトープの改修工事